

図 10 で表される  $\mathbf{a}$  の成分表示は、

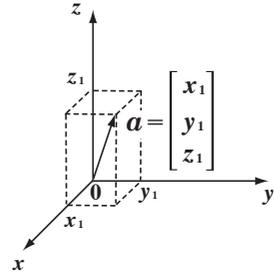
$$\mathbf{a} = \begin{bmatrix} x_1 \\ y_1 \\ z_1 \end{bmatrix} \text{ となり,}$$

その大きさ (ノルム) は、

$$\|\mathbf{a}\| = \sqrt{x_1^2 + y_1^2 + z_1^2} \text{ となる。}$$

さらに、3次元ベクトルの内積の成分表示は次の通りである。

図 10 空間ベクトルの成分表示



### 3次元ベクトルの内積の成分表示

$$\mathbf{a} = \begin{bmatrix} x_1 \\ y_1 \\ z_1 \end{bmatrix}, \mathbf{b} = \begin{bmatrix} x_2 \\ y_2 \\ z_2 \end{bmatrix} \text{ のとき, } \leftarrow \begin{array}{l} \mathbf{a}, \mathbf{b} \text{ は, } \mathbf{a} = [x_1 \ y_1 \ z_1] \\ \mathbf{b} = [x_2 \ y_2 \ z_2] \text{ のように表} \\ \text{しても, 同じことだ。} \end{array}$$

$$\text{内積 } \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = x_1x_2 + y_1y_2 + z_1z_2$$

ここで、 $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  のなす角を  $\theta$  とおくと、

$$\cos \theta = \frac{\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}}{\|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\|} = \frac{x_1x_2 + y_1y_2 + z_1z_2}{\sqrt{x_1^2 + y_1^2 + z_1^2} \sqrt{x_2^2 + y_2^2 + z_2^2}}$$

(ただし、 $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}, \mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ )

### ● ベクトルの外積もマスターしよう!

内積の基本の解説が終わったので、次に、2つの3次元ベクトルの外積についても解説しておこう。

$\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  の内積は  $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$  と表し、これはある実数 (スカラー) になるのに対して、 $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  の外積は  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  と表し、この結果はベクトルとなる。よって、これを  $\mathbf{h}$  とおくと、 $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  の外積  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  は、

$$\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \mathbf{h} \quad \dots\dots \textcircled{1} \text{ と表すことができるんだね。}$$

この外積  $\mathbf{h}$  には次に示す3つの特徴がある。

(i)  $\mathbf{h}$  は、 $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  の両方と直交する。つまり、 $\mathbf{h} \perp \mathbf{a}, \mathbf{h} \perp \mathbf{b}$  より

$$\mathbf{h} \cdot \mathbf{a} = 0 \text{ かつ } \mathbf{h} \cdot \mathbf{b} = 0 \text{ となる。}$$

(ii) 外積  $\mathbf{h}$  のノルム (大きさ)

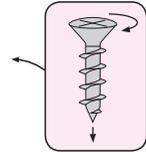
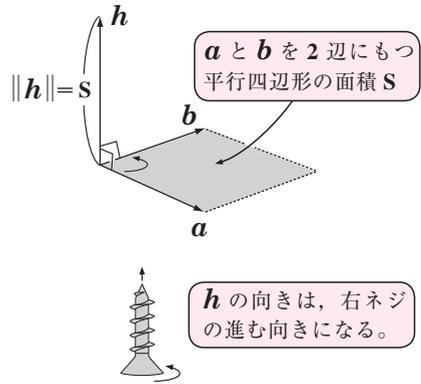
$\|\mathbf{h}\|$  は、図 11 に示すように、 $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  を 2 辺にもつ平行四辺形の面積  $S$  と一致する。  
つまり  
 $\|\mathbf{h}\| = S$  となる。

(iii) さらに、 $\mathbf{h}$  の向きは図 11 に示すように、 $\mathbf{a}$  から  $\mathbf{b}$  に向かうように回転するとき、右ネジが進む向きと一致するんだね。

したがって、外積  $\mathbf{b} \times \mathbf{a}$  は、 $\mathbf{b}$  から  $\mathbf{a}$  に回転するとき右ネジの進む向きと一致するので、 $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  と逆向きになる。つまり、

$\mathbf{b} \times \mathbf{a} = -\mathbf{a} \times \mathbf{b} \quad (= -\mathbf{h})$  となるんだね。このように外積では、交換の法則は成り立たないことに注意しよう。

図 11 ベクトルの外積  
 $\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \mathbf{h}$



それでは、外積の具体的な求め方について解説しよう。2つのベクトル  $\mathbf{a} = [x_1 \ y_1 \ z_1]$ 、 $\mathbf{b} = [x_2 \ y_2 \ z_2]$  の外積  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  は、次の図 12 のように求めることができる。

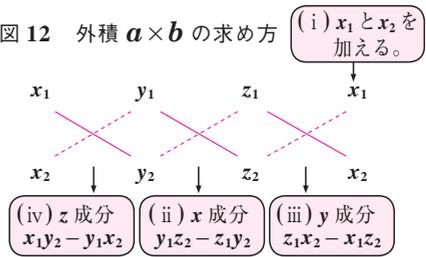
(i) まず、 $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  の成分を上  
下に並べて書き、最後に、  
 $x_1$  と  $x_2$  をもう 1 度付け加える。

(ii) 真ん中の  $\begin{matrix} y_1 & z_1 \\ y_2 & z_2 \end{matrix}$  をたすきが

けに計算した  $y_1 z_2 - z_1 y_2$  を外積の  $x$  成分とする。

(iii) 右の  $\begin{matrix} z_1 & x_1 \\ z_2 & x_2 \end{matrix}$  をたすきがけに計算した  $z_1 x_2 - x_1 z_2$  を外積の  $y$  成分とする。

図 12 外積  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  の求め方



(iv) 左の  $\begin{matrix} x_1 & y_1 \\ x_2 & y_2 \end{matrix}$  をたすきがけに計算した  $x_1y_2 - y_1x_2$  を外積の  $z$  成分とする。

以上より、 $\mathbf{a} = [x_1 \ y_1 \ z_1]$  と  $\mathbf{b} = [x_2 \ y_2 \ z_2]$  の外積  $\mathbf{a} \times \mathbf{b} (= \mathbf{h})$  は、  
 $\mathbf{h} = \mathbf{a} \times \mathbf{b} = [y_1z_2 - z_1y_2 \ z_1x_2 - x_1z_2 \ x_1y_2 - y_1x_2] \cdots \cdots \textcircled{1}$  となる。

そして、 $\mathbf{h} \perp \mathbf{a}$ 、かつ  $\mathbf{h} \perp \mathbf{b}$ 、すなわち  $\mathbf{h} \cdot \mathbf{a} = 0$ 、 $\mathbf{h} \cdot \mathbf{b} = 0$  となることは容易に計算で分かるので、ご自身で確認されるといい。

ここでは、 $\|\mathbf{h}\|$  が  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  を 2 辺にもつ平行四辺形の面積  $S$  に等しくなることを証明しておこう。

$S = \|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\| \sin \theta$  ( $\theta$ :  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  のなす角) より、

$$S^2 = \|\mathbf{a}\|^2 \|\mathbf{b}\|^2 \sin^2 \theta = \|\mathbf{a}\|^2 \|\mathbf{b}\|^2 (1 - \cos^2 \theta)$$

$$= \|\mathbf{a}\|^2 \cdot \|\mathbf{b}\|^2 - (\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})^2$$

$$= \underbrace{\|x_1^2 + y_1^2 + z_1^2\|}_{\|\mathbf{a}\|^2} \cdot \underbrace{\|x_2^2 + y_2^2 + z_2^2\|}_{\|\mathbf{b}\|^2} - \underbrace{(x_1x_2 + y_1y_2 + z_1z_2)^2}_{(\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})^2}$$

$$= (x_1^2 + y_1^2 + z_1^2)(x_2^2 + y_2^2 + z_2^2) - (x_1x_2 + y_1y_2 + z_1z_2)^2$$

$$= \underbrace{x_1^2x_2^2 + x_1^2y_2^2 + x_1^2z_2^2 + y_1^2x_2^2 + y_1^2y_2^2 + y_1^2z_2^2 + z_1^2x_2^2 + z_1^2y_2^2 + z_1^2z_2^2}_{(x_1^2 + y_1^2 + z_1^2)(x_2^2 + y_2^2 + z_2^2)} - \underbrace{(x_1^2x_2^2 + y_1^2y_2^2 + z_1^2z_2^2 + 2x_1x_2y_1y_2 + 2y_1y_2z_1z_2 + 2z_1z_2x_1x_2)}_{(x_1x_2 + y_1y_2 + z_1z_2)^2}$$

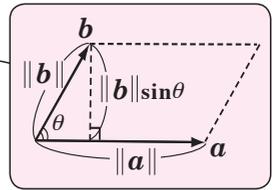
$$= \underbrace{(y_1^2z_2^2 - 2y_1y_2z_1z_2 + z_1^2y_2^2)}_{(y_1z_2 - z_1y_2)^2} + \underbrace{(z_1^2x_2^2 - 2z_1z_2x_1x_2 + x_1^2z_2^2)}_{(z_1x_2 - x_1z_2)^2} + \underbrace{(x_1^2y_2^2 - 2x_1x_2y_1y_2 + y_1^2x_2^2)}_{(x_1y_2 - y_1x_2)^2}$$

$$= \underbrace{(y_1z_2 - z_1y_2)^2}_{(y_1z_2 - z_1y_2)^2} + \underbrace{(z_1x_2 - x_1z_2)^2}_{(z_1x_2 - x_1z_2)^2} + \underbrace{(x_1y_2 - y_1x_2)^2}_{(x_1y_2 - y_1x_2)^2}$$

となる。よって、これは  $\mathbf{h} = \mathbf{a} \times \mathbf{b} = [y_1z_2 - z_1y_2 \ z_1x_2 - x_1z_2 \ x_1y_2 - y_1x_2]$  のノルム (大きさ) の 2 乗に等しい。つまり

$S^2 = \|\mathbf{h}\|^2$  より、 $\|\mathbf{h}\| = S$  ( $\because S \geq 0, \|\mathbf{h}\| \geq 0$ )、すなわち  $\|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\| = S$  が成り立つことが示せたんだね。納得いった?

では、外積も例題で実際に計算して求めてみよう。



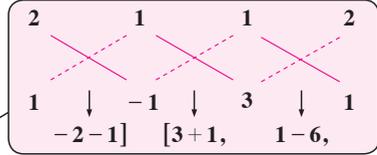
公式：  
 $(a + b + c)^2 = a^2 + b^2 + c^2 + 2ab + 2bc + 2ca$   
 を使った。

次の各ベクトル  $\mathbf{b}$  と  $\mathbf{c}$  の外積  $\mathbf{b} \times \mathbf{c}$  を求めよ。

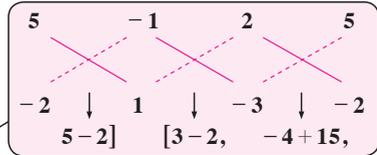
(1)  $\mathbf{b} = [2 \ 1 \ 1]$ ,  $\mathbf{c} = [1 \ -1 \ 3]$

(2)  $\mathbf{b} = [5 \ -1 \ 2]$ ,  $\mathbf{c} = [-2 \ 1 \ -3]$

(1)  $\mathbf{b} = [2 \ 1 \ 1]$  と  $\mathbf{c} = [1 \ -1 \ 3]$  の外積  $\mathbf{b} \times \mathbf{c}$  は右のように計算して、  
 $\mathbf{b} \times \mathbf{c} = [4 \ -5 \ -3]$  となる。



(2)  $\mathbf{b} = [5 \ -1 \ 2]$  と  $\mathbf{c} = [-2 \ 1 \ -3]$  の外積  $\mathbf{b} \times \mathbf{c}$  は右のように計算して、  
 $\mathbf{b} \times \mathbf{c} = [1 \ 11 \ 3]$  となる。



### ● スカラー 3 重積も押さえておこう！

ベクトルの内積と外積の応用として，“スカラー 3 重積”についても解説しよう。

3つの3次元ベクトル  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ ,  $\mathbf{c}$  のスカラー 3 重積は， $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c})$  で定義され，これを  $(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c})$  と表すことにしよう。つまり

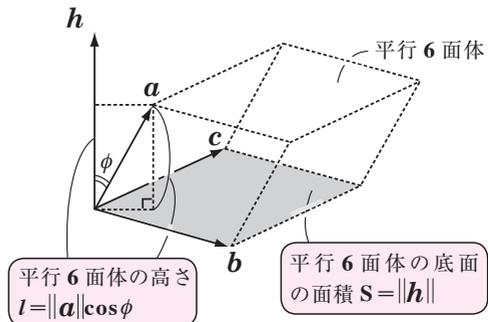
ベクトル 3 重積  $(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}) = \mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c})$  ……② だね。

$\mathbf{b}$  と  $\mathbf{c}$  の外積  $\mathbf{b} \times \mathbf{c}$  を  $\mathbf{h}$  とおくと，②は  $\mathbf{a} \cdot \mathbf{h}$ ，つまり  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{h}$  の内積なので，この結果はある実数（スカラー）になることが分かるね。

では，このスカラー 3 重積  $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c})$  の図形的な意味を解説しておこう。

図 13 に示すように，外積  $\mathbf{h} = \mathbf{b} \times \mathbf{c}$  は， $\mathbf{b}$  と  $\mathbf{c}$  のいずれとも垂直なベクトル，つまり， $\mathbf{b}$  と  $\mathbf{c}$  の張る平面と  $\mathbf{h}$  は垂直なベクトルであることが，まず分かるね。

図 13 ベクトル 3 重積  $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c})$



また、 $\mathbf{h}$  のノルム  $\|\mathbf{h}\|$  は、 $\mathbf{b}$  と  $\mathbf{c}$  を 2 辺とする平行四辺形の面積  $S$  と等しいことも大丈夫だね。

さらに、このスカラー 3 重積  $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c})$  は、 $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{h} (= \mathbf{b} \times \mathbf{c})$  のなす角を  $\phi$  とおくと、

$$\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c}) = \mathbf{a} \cdot \mathbf{h} = \|\mathbf{a}\| \|\mathbf{h}\| \cos \phi = \|\mathbf{h}\| \|\mathbf{a}\| \cos \phi \quad \cdots \textcircled{3} \quad \text{となる。}$$

底面の平行四辺形の面積  $S$       平行六面体の高さ  $l$

ここで、図 13 のように、3 次元空間において、 $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ ,  $\mathbf{c}$  がいずれも  $\mathbf{0}$  でなく、かつ同一平面上には存在しないとすると、空間上に、3 つのベクトル  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ ,  $\mathbf{c}$  を辺にもつ平行 6 面体が考えられる。そして、 $\mathbf{b}$  と  $\mathbf{c}$  を辺にもつ平行四辺形を、この平行 6 面体の底面と考えると、この底面の面積  $S$

6 つの平行四辺形を面にもつ立体

もつ平行四辺形を、この平行 6 面体の底面と考えると、この底面の面積  $S$  は  $S = \|\mathbf{h}\|$  となる。

また、図 13 に示すように、 $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{h}$  のなす角  $\phi$  が、 $0 \leq \phi \leq \frac{\pi}{2}$  をみたすとき、 $\|\mathbf{a}\| \cos \phi$  は、 $\mathbf{a}$  の終点から底面に下した垂線の長さ、つまり平行 6 面体の高さ  $l$  を表すことになるんだね。よって、 $\textcircled{3}$  は、

$$\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c}) = S \cdot l (= (\text{底面積}) \cdot (\text{高さ})) \quad \text{となるので、}$$

スカラー 3 重積  $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c})$  は、この平行 6 面体の体積  $V$  を表すことになるんだね。もちろん、 $\phi$  は、 $\frac{\pi}{2} < \phi \leq \pi$  の場合もあり得る。この場合は、 $\cos \phi < 0$  となって、高さ  $l = \|\mathbf{a}\| \cos \phi$  が負の値をとるので、これまで考慮に入れると、この平行 6 面体の体積  $V$  は、このスカラー 3 重積に絶対値を付けて

$$V = |\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c})| \quad \text{と表せばよいことが分かるはずだ。}$$

では最後に、 $\mathbf{a} = [1 \ -1 \ 2]$ ,  $\mathbf{b} = [2 \ 1 \ 1]$ ,  $\mathbf{c} = [1 \ -1 \ 3]$  のベクトル 3 重積を求めておこう。 $\mathbf{b} \times \mathbf{c} = [4 \ -5 \ -3]$  となることは、前の例題 (1) で既に求めているので、

$$\begin{aligned} \mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c}) &= [1 \ -1 \ 2] \cdot [4 \ -5 \ -3] \\ &= 1 \cdot 4 + (-1) \cdot (-5) + 2 \cdot (-3) = 4 + 5 - 6 = \underline{3} \quad \text{となるんだ} \end{aligned}$$

これは正より、これが  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ ,  $\mathbf{c}$  でできる平行 6 面体の体積  $V$  なんだね。

ね。大丈夫？